

子どもの視点から学ぶ

一園内研修と幼児理解一

○橘 明子（平和学園幼稚園）

佐藤康富（鎌倉女子大学）

今井恵子（鴨居幼稚園）

I、テーマ設定

1、現在、幼稚園、保育園を問わず、保育の質の向上が最大の課題となっている。そのためには、保育者の質の維持、向上が大切だと考える。

2、一方で、現場の保育者がもう一度原点に立ち返って、幼児理解を深めたいという思いがあり、研修の場を求めている。

→このような状況から、神奈川県私立幼稚園連合会における保育の質の向上を図るため、園内研修のあり方、また幼児理解を深めるあり方を研修してきた。そこで今回は、昨年度と今年度の研修について発表する。

II、研究の目的

保育者が事例を持ち寄り、その問題点を明らかにし、改善策を探るという研修のあり方とその中核である幼児理解を検討することにある。

III、神私幼連合会研究部会の概要

（初年度からの経緯が紹介されたが、ここでは昨年度と今年度のことを記す）

1、園内研修

1) 2011年5月～2012年2月まで
月1回の開催で計8回

1回3時間程度

2) 参加人数

研究部会参加者は23名、15園

3) 研修を高める方法

“ビジュアル的な資料”

・文章だけではとらえきれないため、写

真やVTRなどを持ち寄って発表し、話し合う。

・事例について、思ったことを付せんに書き出してはる（KJ法）

→話し合いを可視化していくために。

このようにして研究会から帰り、各園の保育を子どもの視点に立った保育へと変えていくためのファシリテーターとなっていけるようにした。

2、幼児理解

1) 2012年5月～ 月1回開催

1回3時間程度

2) 参加人数

研究部会参加者は36名 30園

3) 今年度の進め方

研究を行うにあたり仮説を立てた。

「経験年数別にグループ作りをすると、連帯感と刺激を与え合い、自ら成長していくのではないか。」

4) 研修の実際

①経験年数別グループに分かれる。

・A：4～5年

・B：6～10年

・C：11年～15年

・D：16～28年

②持ち寄った事例を付せんを使って話し合う。

③各グループでの話し合いを報告する。

1つの事例を全グループで話し合う。

④講師（佐藤先生）からの感想、まとめ

⑤全グループの話し合いで出された付せん表を全部コピーし、エピソード集と

してまとめる。

→参加者へのフィードバック

※この中で

- ・“子どもの視点”とはどういうことか？
- ・子どもの言動から気づかされること
- ・一度、大人の気持ちをどけてみる
- ・人の見方のくせや思いこみをどけてみる
ことが大切

(こうなるべき、こうなるんじゃないか、などの予測を一度どけてみる)

そして、

- ①子どもの気持ち
- ②保護者の気持ち
- ③援助の内容

という、3つの分類にして考え合った。

その結果、経験年数によって微妙な反応の違いがあり、仮説立てたこととつながっているのではないかと考えた。

今後

- ①現在の自園のくくりではなく、多数園の中で自由に意見が言えるように。
- ②若い保育者たちが一個人として自由に発言できるという環境から自由に意見が言えるようになり、自信となることができるように。
- ③子どもの視点から学ぶことにより、子ども理解を深め、子どもの心模様を知ることと、保育者の質の向上は連動している。
- ④別の視点を与えられ、子どもへの視点が複眼的になるのではないかと思う。

IV、ワークショップ(当日24人の参加者で行った)

①グループ作り

- ・方法・・・4月1日から3月31日生まれまで生年月日順に参加者が言葉を使わずに(ジェスチャーなど)表現して一列に並び、端から6人ずつ4つ

のグループに分かれた。

②「園内研修で思うこと」というテーマで付せんを用いて話し合った。

- 例
- ・私の園ではこういうことをしている
 - ・園内研修で難しいこと
 - ・もっとこうしたいと思うこと
- など

③・各グループでA3の紙に各自書いた付せんを貼りながら意見を出していく。

- ・同じような意見をくくり分類する。
(園内研修の難しさ、現状、要望など)

④各グループから発表してもらう。

A：園内研修の方法、良い点、問題点などを確認し合えた。

B：分類分けしながら園内研修の課題や、この方法を知ることができ、持ち帰りたい。

C：園内研修の良い点、悪い点が半分くらいずつ出た。

(時間の確保、進行の方法、フィードバックの方法がわからない)

D：園内研修の回数、次に生かせないなどの課題、最後に園長から重いお言葉の鶴の一声があるなど、各園の課題がわかった。

V、まとめ

- ・この様な方法で園内研修をすると、子どもの思いなどもいろいろ出る。しかし、出ただけでいいのか？次に活かしていくには出た課題に優先順位をつけていき、実行していくなどの努力が大切。各園でどこからが可能か、皆で考えてみてはどうか。
- ・私たちが学ぶという感情をいつも持っていることが大事。究極は感性だと思う。その感性が土台となって、子どもの本当にやりたいことがわかってあげられる。
- ・子どもの視点から学ぶということは、絶

えず問い直すことではないか。あの津守先生でさえも実習生から学ぶとおっしゃる。自分の思いこみではなく、いろいろな先生から聞くということが大切。「学び方を学ぶ」ということ。

- ワークショップの良さとは何か
→異なる世界に出会うこと、自分の中で作り上げてきた“当たり前”が当たり前ではないということに気づくことができるから、“子どもを見る”につながっていく。
- 子どもの背中に子どもの心が描かれている。声のかけ方ひとつで子どもを傷つけることにもなる。保育者同士が関係を結ぶこと。“私の意見”をきちんと言えることが子どもを理解していくことにつながっていく。子どもの視点を学ぶ前にひとりひとりの保育者の姿勢が大切ではないか。